

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



男子団体戦決勝副将戦＝東海大学・ウルフ（手前）が攻める

平成28年度
全日本学生柔道優勝大会
東海大学が王座奪還

全日本学生剣道選手権大会
全日本女子学生剣道選手権大会



前列左から3人目・優勝した山田凌平

山田凌平（明治大）が初優勝

平成 28 年度全日本学生柔道優勝大会

東海大学が王座に返り咲き



全日本学生柔道優勝大会（男子 65

回・女子 25 回）が 6 月 25 日・26 日に

日本武道館で開催され、男女とも全

国 9 ブロックから集まったチームが

大学日本一を目指して覇を競った。

試合は、男子 5 分、女子 4 分、国際

柔道連盟試合審判規定で行われた。

男子は東海大学が決勝で日本大学

を 3-1 で降して 2 年ぶり、最多 21

回目の優勝に輝いた。女子 5 人制で

は山梨学院大学が環太平洋大学との

接戦を制して大会初の 3 連覇、女子

3 人制は早稲田大学が桐蔭横浜大学

に勝利して初優勝を果たした。

男子団体戦（62 チーム出場）

昨年、連続優勝記録が 7 で途切れ

た東海大は、リオオリンピック 90 kg

級代表のベイカー・茉秋をケガで欠き

ながらも、決勝までの試合を 7-1

0、6-0、6-0、3-0 と一敗

もすることなく相手を圧倒して、11

年連続で決勝進出を決めた。

反対側のブロックでは日本大が順

当に勝ち上がり、準決勝では昨年王

者の筑波大を 2-1 で降し、2 年ぶ

りに決勝の舞台に臨むこととなっ

た。

◇決勝

東海大学 3-1 日本大学

先鋒 小原拳哉 ○大外刈 山下恭平

次鋒 太田彪雅 引分 向翔一郎

五将 平野貴之 指導 4 ○田中 颯

中堅 香川大吾 引分 佐藤和哉

三将 奥野拓末 ○合 技 一色勇輝

副将 ウルフロン ○上四方 安達裕助

大将 影浦 心 引分 尾崎央達

先鋒戦、東海大の小原は日本大・

山下から開始約 10 秒で大外刈の技有

を奪う。その後、小原は手堅い試合

運びで山下の反撃を防ぎ、先に貴重

な勝ち星を挙げる。次鋒戦は引分。

続く五将戦、東海大・平野と日本大・

田中との試合では、田中が 10 cm の身

長差を活かして有利な組手となる。

平野は圧力をかける田中に対して自

分の組手を作れず技が出ない。状況

を打破できないまま平野に指導が 4

つ重なり反則負。日本大が内容差で

一歩リードする。中堅戦も引き分け

て迎えた三将戦。東海大・奥野は日

本大・一色がやや強引に仕掛けてき

た大外刈を返して技有を奪うと、そ

のまま抑込で合技一本。東海大が再

逆転に成功する。副将戦で登場した



男子・三将戦＝東海大・奥野（左）が
日本大・一色の太外刈を返して技有



男子決勝・副将戦＝東海大・ウルフ（手前）が
上四方固一本で東海大の優勝を決める



男子決勝・先鋒戦＝東海大・小原（左）が
日本大・山下から開始早々に太外刈で技有を奪う

「昨年は8連覇の重圧の中で気付かない内に驕りが出て逆上せ上がっていったと思うんです。色々小さいことが積み重なって、ギリギリの勝負を取れなかった。そこで、もう一回謙虚になって、筑波に負けた原因を分



◎優勝Ⅱ東海大・上水研 朗監督

東海大・ウルフアロンは序盤から合い十分に攻め、攻撃の手を緩めない。日本大の安達はウルフの勢いを止められず、防戦一方になるも、なんとか堪えてポイントとは与えない。反撃したい安達は引き込み技をかけたウルフを抑込にかかると、ウルフは逆に上四方固で抑込に入り、もかく安達を抑えて一本。この時点で東海大の2年ぶりの優勝が決定。大將戦は引分で、3―1で勝利した東海大が、昨年の雪辱を果たして21回目の優勝を飾った。

「去年は代表戦で負けて、周りはお前のせいじゃないと言ってくれたんですけど、負けたのは僕なので、責任というか悔しい思いをしていました。去年の雪辱を晴らすという意味では最高の舞台だと思っていたので、緊張はなく、何が何でも一本を取って勝つぞという気持ちでした。優勝は一人ひとりが自分の役割を果たした結果だと思っています」



◎優勝Ⅱ東海大・ウルフアロン選手

析して組手からやり直しました。今年の4年生には、本当に勝つ気はあるのか、また負けていいのかと、厳しく、あえてきつい言い方をしました。部員は本当に辛く、かわいそうだったと思いますが、そこを求めないと王座は奪還できないと考えていました。最後は選手一丸となり、4年生が引つ張ってくれました」

■女子5人制 (35チーム出場)

2連覇中の山梨学院大は5―0、4―0、3―1と余裕を持つての勝ち上がり。準決勝では、淑徳大に苦戦しながらも1―0とギリギリで降して決勝に進出した。

環太平洋大は梅木真美が左膝のケガで欠場。主力一名が不在の中、4―1、2―0、1―0と接戦をものにして準決勝の帝京大戦へ。勝利数が1―1で並ぶも内容差で勝利した環太平洋大が、苦しみながらも2年ぶりに決勝の舞台に進んだ。

◇決勝

山梨学院大 2―1 環太平洋大
 先鋒 月野珠理 引 分 廣木あすか
 次鋒 出口クリスタ〇横四方固 小川寧々
 中堅 佐藤史織 合 技〇青柳麗美
 副将 新添左季〇内 股 安達裕助
 大将 岡田実咲 引 分 井上あかり

まず先鋒戦は引き分ける。次鋒の山梨学院大・出口クリスタは開始早々、背負投を仕掛ける。ポイントにはならなかったが、うつ伏せになって逃げた相手の腕を引いてひっくり返すと、がっちり横四方固で抑え

て一本勝。続く中堅戦は体格で勝る環太平洋大・青柳が山梨学院大・佐藤に圧力をかける。押され気味の佐藤は背負投を仕掛けるが、青柳はこれを返して技有を奪うと、そのまま横四方固に移行して合技一本。試合を振り出しに戻す。副将戦では、出場した3試合すべてで一本勝している山梨学院大・新添が登場。新添は開始52秒、見事な内股で環太平洋大・安達を秒殺。山梨学院大が3連覇に王手をかける。大将戦、追い込まれた環太平洋大の井上は開始から攻勢に出る。山梨学院大・岡田は井上の猛攻に耐える苦しい展開。押され続ける岡田に指導が3つまで与えられる。最後まで一本を狙って攻め続ける井上だが、岡田は何とか防ぎきって引分に持ち込むと、山梨学院大が史上初の3連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ山梨学院大・山部伸敏監督

「毎年、実力の差がないので楽な試合は一試合もありません。その中で少しの差をものにする練習をやってきました。ケガ人が出る中で、よくまとめてくれたと思います。部員たちの思いが3連覇の原動力です」

◎優勝Ⅱ山梨学院大・出口クリスタ選手

「とにかく自分がポイントを取って後を楽にしようと思っていました。後ろは後輩しかいないので、そこは上級生の役目だと思っていました。来年4連覇を達成して自分達のいた代が最強だったと言われたいです」



女子5人制決勝中堅戦＝環太平洋大・青柳（右）が技有を奪う



女子5人制決勝次鋒戦＝山梨学院大・出口（上）が横四方固でチームを勢いづける一本勝



女子5人制優勝Ⅱ山梨学院大学



女子5人制決勝副将戦＝山梨学院大・新添（上）が優勝を引き寄せる内股一本を奪う

■女子3人制 (26チーム出場)

前年優勝の鹿屋体育大は5人制に出場。決勝は早稲田大と桐蔭横浜大の初優勝をかけた対決となった。

◇決勝

早稲田大 1―0 桐蔭横浜大
先鋒 佐藤美裕 引分 杉山歌嶺
中堅 渡邊聖末○指導 4 鈴木双葉
大将 小野華葉 引分 山口凌歌

先鋒戦は引分、中堅戦は早稲田大・渡邊聖末が一方的に攻め続け、相手の指導4の反則負で勝利。大将戦も引き分け、早稲田大が創部史上初の優勝に輝いた。



女子3人制決勝大将戦＝背負投を仕掛ける早稲田大・小野（手前）

◎優勝Ⅱ早稲田大・川田一洋監督

「学生を日本一にしたいとずっと思っていましたので、嬉しいの一言です。東京大会で負けた流れを切り替えたので、ウエイトトレーニングを入れたり、普段しない時期に出稽古をしたり、変化を持たせたことが功を奏したと考えています。学生が努力してきたことが結果に残るよう、今後もやっていきたいです」



女子3人制優勝＝早稲田大学

【大会結果】

■男子

- ▽優勝Ⅱ東海大
- ▽準優勝Ⅱ日本大
- ▽第3位Ⅱ筑波大、国士舘大
- ▽優秀選手Ⅱ小原拳哉（東海大）、ウルファロン（東海大）、田中颯（日本大）、佐藤和哉（日本大）、根津信太（筑波大）、山田伊織（国士舘大）、小川雄勢（明治大）、渕原慎一（日本体育大）、黄鐘成（近畿大）、二見省吾（國學院大）
- ▽優勝Ⅱ山梨学院大
- ▽準優勝Ⅱ環太平洋大
- ▽第3位Ⅱ淑徳大、帝京大
- ▽優秀選手Ⅱ新添左季（山梨学院大）、青柳麗美（環太平洋大）、白井杏（淑徳大学）、佐俣優依（帝京大）
- 女子3人制
- ▽優勝Ⅱ早稲田大
- ▽準優勝Ⅱ桐蔭横浜大
- ▽第3位Ⅱ芦屋大、別府大
- ▽優秀選手Ⅱ渡邊聖末（早稲田大）、杉山歌嶺（桐蔭横浜大）、古賀寿璃奈（芦屋大）、佐藤静佳（別府大）

青色柔道着を国内大会で初採用

全日本学生柔道連盟は、国内大会では初めて青色柔道着の着用を義務づけた。他に義務づけるのは10月に行われる全日本学生体重別選手権大会、全日本学生体重別団体優勝大会の2大会。これまで国内では、青色柔道着の着用は国際大会のみだったが、佐藤宣践前全日本学生柔道連盟会長が国際大会に倣（なま）って試合を見や

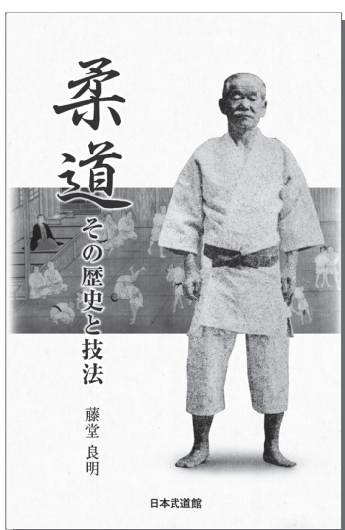
すくする目的で導入を提案。昨秋の理事会で承認、可決された。全日本学生柔道連盟・浅野怜央委員長は「観客が試合を見やすくなり、国内の大会で初めて実施できてよかった。今後は試合中の掲示板の色も道着に合わせて白と青にしたい」とコメント。この流れが「柔道界全体」に広がるかどうか今後が注目される。

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法</p> <p>体術の起こりと技法</p> <p>組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法</p> <p>講道館柔道の創設と技法</p> <p>嘉納治五郎の乱取開発</p> <p>講道館柔道の行事と整備</p> <p>警視庁武術大会の勝利と技法</p> <p>学校体操への柔道導入の試み</p> <p>学校における柔道普及の実態</p> <p>高専柔道の起こりと技法</p> <p>嘉納治五郎の他武道への接近</p> <p>精力善用国民体育の創案と技法</p> <p>全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法</p> <p>第二次大戦中の柔道界と技法</p> <p>第二次大戦後の柔道禁止と復活</p> <p>格技柔道から武道柔道へ</p> <p>女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法</p> <p>竹内流腰廻</p> <p>関口新心流柔術</p> <p>起倒流柔術</p> <p>起倒流柔道</p> <p>直信流柔道</p> <p>真之神道流柔術</p> <p>天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題</p> <p>柔道技法の変遷と特徴</p> <p>柔道の国際的普及と発展</p> <p>段位制度の国際比較</p> <p>柔道の国際化と課題</p> | |

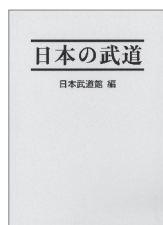
編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

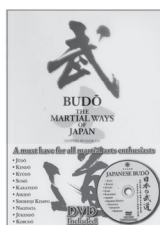
日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

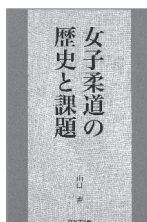


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)

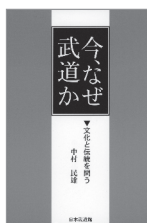


柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

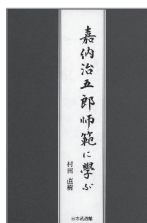


柔道の国際化 一その歴史と課題

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)



女子決勝＝小川（奥）対木宮



男子決勝＝山田（左）の2本目の小手が貝塚に決まる

全日本学生剣道選手権大会 全日本学生剣道東西対抗試合

全日本女子学生剣道選手権大会 全日本女子学生剣道東西対抗試合

男子 女子

**山田凌平（明治大）
小川萌々香（日体大）
が初優勝**

第64回全日本学生剣道選手権大会、第50回全日本女子学生剣道選手権大会、第63回全日本学生剣道東西対抗試合、第10回全日本女子学生剣道東西対抗試合（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）は7月2日・3日の両日、日本武道館で開催された。

学生剣道日本一を決める本大会。男子は山田凌平（明治大2年）、女子は小川萌々香（日体大2年）が、それぞれ初優勝に輝いた。東西対抗試合では、男子が東軍（大将戦まで）、女子は3年ぶりに西軍（大将戦まで）が勝利した。通算成績は、男子東軍46勝16敗（1引分）とし、女子西軍は6勝4敗とした。

□選手権大会

2日に女子（90名出場）、3日に男子（176名出場）の試合が行われた。

トーナメント方式で、試合時間は5分3本勝負。時間内に決しない場合は、時間無制限の一本勝負による延長戦で争われた。

▽男子

準決勝は、昨年度の世界選手権大会に最年少で出場した山田凌平（明治大）と牧島凜太郎（鹿屋体育大）の対戦。もう一つのブロックは、貝塚泰紀（日体大）と三上ヘンリー大

智（中央大）の対戦となった。

山田対牧島の対決。九州学院高卒業の山田と島原高卒業の牧島は同級生で、九州のみならず、全国の舞台で何度も鎧を削り合ってきた。

山田は、先手を打って出るが決めきれない。両者は一進一退の攻防を見せ、決め手のないまま延長戦へ。

一足一刀の間合いに入ると、牧島は小手から面へと連続技を放ったが、山田がすかさず反応し、牧島に鋭い面を打ち込む。これが決まると山田は初の決勝戦へと駒を進めた。貝塚対三上。選手権者である梅ヶ

谷翔(中央大)を撃破して勢いに乗る貝塚と、関東王者の矢野貴之(國士館大)を破って勝ち上がった三上。

貝塚は、小柄でキレとスピードのある攻めを見せる。一方の三上は、190センチの恵まれた体格で上段から力強い振りを見せる。3分が経過、貝塚は素早く間合いを詰めると、一瞬の隙を見逃さず、鋭く三上から左小手を奪う。この一本が決まり、貝塚は決勝進出を決めた。

決勝は、山田対貝塚。試合に動きがないまま中盤にさしかかる。鏢迫り合いから両者が分かれて構え合うと、貝塚が鋭い面を放つ。すぐさま山田が小手で対応するが、貝塚の面が決まり先制。反撃の機会を窺う山田は、小手、面、突きなど連続技を見せるが決め切れない。試合終盤、一本を取り返したい山田が、貝塚の手元が上がったところを、得意の小手で奪う。

勝負の立会で、貝塚は小手の打ち終わりに手元を上げてしまった。そこに、山田は反応し小手を決めた。山田は終了間際に逆転し、初優勝に輝いた。試合を静観していた観客は、この逆転劇にどよめいた。

◎男子優勝Ⅱ山田凌平選手(明治大)



「優勝して嬉しい反面、来年、再来年のプレッシャーもあります。だけど、やっぱり嬉しいですね。一試合目は緊張して、ちよつと体も硬かったんですけど、試合が上がるにつれて自分の思い切った技が出ました。そこから少し気持ちが変わったと感じています。」

決勝は焦りました。体力の方もきつくて、技を出そうと気持ちでは思ってたんですけど、体が動かない状況でした。でも、最後一本欲しかったので、そこはもう何も考えずに手を出しました。本当に思い切った出した技が当たったという感じです。優勝したいという執念で二本とれたんだと思います。

関東ではベスト8という結果で、少し満足しない結果だったんですけど、全日本で優勝するためにこれまでに練習してきた甲斐がありました」

▽女子

準決勝は、小川萌々香(日体大)が杉村麻記(早大)と対戦し、木宮凛々子(筑波大)が、関東選手権者の大亀杏(明治大)を破った井手璃華子(國士館大)と対戦した。いずれも準決勝初出場同士の顔合わせとなった。

小川対杉村は、互いに上段の構え。開始50秒、小川が杉村に引き面を決める。さらに、小川は片手面の相打ちを制して勝負を決めた。

木宮対井手は、両者とも積極的に技を出し合うが延長へ。井手が動きだし間合いを詰め、木宮がすかさず跳び込んで面を放ち、勝利した。

決勝は、小川対木宮。両者は試合開始から積極的に攻めていく。上段の小川は、片手面、諸手技と技を繰り出す。対する木宮は、足を使い間合いを詰めながら、打突機会を窺う。4分が経過、先に間合いを詰めたのは木宮。そこに小川が思い切った放った片手面が決まり、先制する。後がない木宮は、小手、面、突きと手数を増やす。小川はそれらを冷静に捌き切って試合終了。小川は嬉しい初優勝を手にした。

◎女子優勝Ⅱ小川萌々香選手(日体大)



「決勝はとにかく一本に集中をして、勝負にこだわって戦おうと思っていました。勝ちたいという気持ちはすぐあつたのですが、ここまでいろいろな人に助けてもらったので、恩師に優勝して恩返ししたいとずっと思っていました。高校時代、金森靖二先生に基礎から全部教えてもらっていたんですけど、なかなか結果として出せませんでした。なので、こういう場で恩返しできたのはすごく嬉しかったです。」

9月の全日本女子選手権大会や秋の大会に向けて、また頑張りたいと思います」



□東西対抗試合

2日に女子、3日に男子の試合が行われた。男子は東西各20名、女子は東西各10名が出場。試合時間は3分間。3本勝負の勝ち抜き戦で争われ、時間内に決しない場合は、引分とし、大将の試合のみ時間無制限の一本勝負による延長戦が行われた。

▽男子

東軍次鋒・筒井雄大（筑波大）は、2人を勝ち抜き、幸先よくリードを広げた。さらに、東軍15将・廣田憲亮（慶大）は、3人抜きの活躍を見せた。ここから、西軍5将・難波飛六朗（環太平洋大）が怒濤の巻き返しを図って3人抜き。しかし、東軍



東軍大将・加納（右）対西軍大将上原。15分の延長の末、東軍が勝利を収めた。

6将・渡邊賢人（日大）を前に退き、流れを阻まれる。そのまま渡邊は2人抜きをするが、西軍3将・米隼人（近畿大）に敗退。米は勢いそのまま、3人抜きに望んだものの阻止され、東軍リードで勝負は進む。東軍3将・田中翔太（法大）は、西軍大将・上原裕二郎（大体大）と対戦。

上原は3将、副将の2人に勝ち抜くと、東軍大将・加納彰大（筑波大）との大将戦に持ち込む。試合は接戦となり、延長までもつれた。延長15分、加納は上原から跳び込み小手を奪って一本。大将戦を制した東軍の勝利が決まった。

◎東軍大将II加納彰大選手（筑波大）「緊張しました。個人戦で負けてしまったので、悔しいという気持ちはありました。でも、東軍の大将を任されているのに、そこで気持ちを引きずって変な試合をして負けたら恥です。気持ちの切り替えを意識して、誇りを持って戦いました」

▽女子

東軍8将・大西ななみ（筑波大）が1人勝ち抜くが、西軍中堅・三浦遥（福岡大）が3人抜きの活躍を見

◇全日本学生剣道東西対抗試合（男子）

名前上部の※は優秀選手賞

東軍（大将戦により勝利）				西軍			
東軍	監督・八木沢誠（日本体育大卒）	監督・今江良彦（同志社大卒）		西軍	監督・竹内善一（鳥取大卒）		
助監督・足澤一成（青森大卒）		助監督・川原清美（園田学園女子大卒）		助監督・大石純子（筑波大卒）			

氏名	学年	学校名	各試合結果	氏名	学年	学校名
先鋒 矢野 貴之	2	国士館大	×	先鋒 井関 銀	4	関西学院大
次鋒 ※筒井 雄大	3	筑波大	×	次鋒 木口 慶彦	4	中央大
18将 芳賀 風介	2	北海学園大	×	17将 西川 雄登	3	環太平洋大
17将 久田松雄 一郎	3	早稲田大	×	16将 高倉 優作	3	朝日大
16将 木下 泰地	2	東北学院大	×	15将 野中 雄斗	3	福岡大
15将 ※廣田 憲亮	4	慶應義塾大	×	14将 塩野 海風	3	別府大
14将 川島 聖哉	3	福井工業大	×	13将 水野 大喜	4	愛知大
13将 遠藤 練	2	北海道教育大岩見沢	×	12将 山田 翔	4	大阪体育大
12将 山田 凌平	2	明治大	×	11将 勝見 将伍	4	天理大
11将 梁村 斗馬	3	福井工業大	×	中堅 望月 脩平	4	鹿屋体育大
中堅 梅ヶ谷 翔	3	中央大	×	9将 横田 貢余	4	同志社大
9将 吉田 圭吾	4	東北学院大	×	8将 木村 恭兵	4	常葉大学
8将 加藤峻 一郎	4	順天堂大	×	7将 橋本 翔馬	4	福岡教育大
7将 水島 幸飛	4	北海道大	×	6将 田辺 駿	4	関西大
6将 ※渡邊 賢人	4	日本大	×	5将 ※難波飛六朗	3	環太平洋大
5将 瑞慶覧 佑介	4	仙台大	×	4将 ※上島 慧	4	関西学院大
4将 富田剣太郎	4	日本体育大	×	3将 ※米 隼人	4	近畿大
3将 田中 翔大	4	法政大	×	副将 持原 大希	4	鹿屋体育大
副将 坂爪 優太	4	国士館大	×	大将 ※上原裕二郎	4	大阪体育大
大将 ※加納 彰大	4	筑波大	延コ			

解説DVD付属!

香川大学教授・同学部長、
医学博士、剣道教士八段 山神眞一 著役に立つ
少年剣道指導法現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で
培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。A5判・並製・256頁・DVD付・
本体2400円+税

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp
インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

せてリードする。続く西軍4将・古田薫(広島大)が1人勝ち抜き、東軍大将・大亀杏(明治大)と対戦。大亀が個人戦での悔しさを晴らす3人抜きを見せた。勝負の行方は大将戦へもつれ込む。西軍大将・北山京桂(大体大)対東軍の大亀。開始30秒、北山が出小手を決めて先制。一足一刀の間から互いに面を狙う。相打ちの勝負は、北山の跳び込み面が、一寸早く大亀を捉えて一本。大将戦を制した西軍が勝利した。

◎西軍大将北山京桂選手(大体大)「自分の良いところだけを出し切りました。前で勝ってきてくれると思っていたんですけど、いいところ取りさせてもらえてありがたいです」

【大会結果】

■選手権大会

◇男子Ⅱ①山田凌平(明治大) ※明治大学生としては18年ぶり2回目

◇男子Ⅱ②貝塚泰紀(日体大) ③牧島凜太郎(鹿屋体育大)、三上ヘンリー大智(中央大)

◇女子Ⅱ①小川萌々香(日体大) ※日体大学生としては7年ぶり4回目

◇女子Ⅱ②木宮凜々子(筑波大) ③井出瑠華子(國士舘大)、杉村麻記(早大)

■東西対抗試合

◇男子Ⅱ東軍が大将戦で勝利(東軍46勝16敗1引分)

◇女子Ⅱ西軍が大将戦で勝利(西軍6勝4敗)

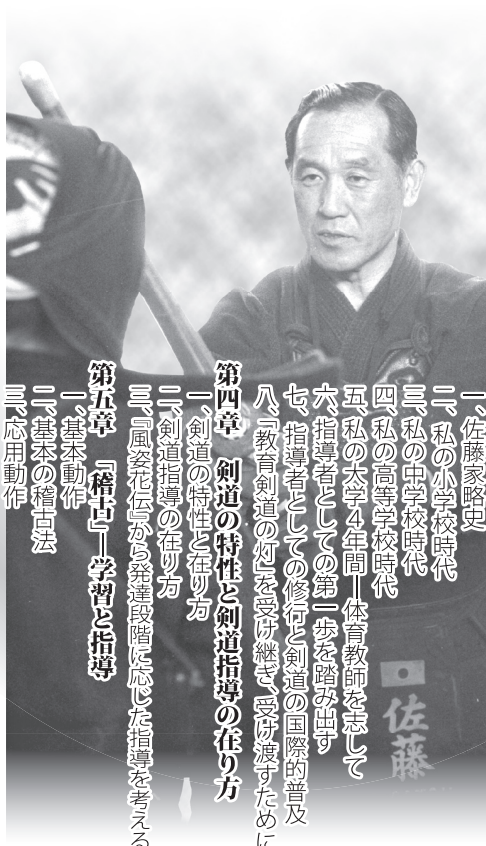
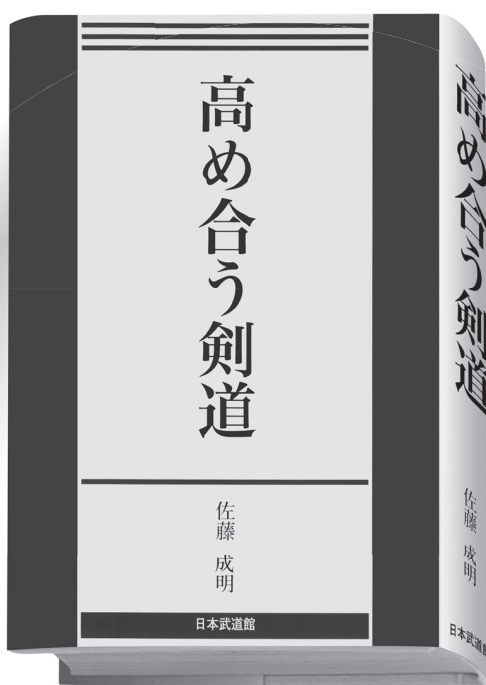
◇全日本女子学生剣道東西対抗試合(監督・助監督は男子と同じ) 名前上部の※は優秀選手賞

東軍										西軍(大将戦により勝利)									
氏名	学年	学校名	各試合結果	氏名	学年	学校名	氏名	学年	学校名	氏名	学年	学校名	氏名	学年	学校名	氏名	学年	学校名	氏名
先鋒	糸山 亜美	3	日本体育大	×	先鋒	鈴木 理沙	4	関西学院大	先鋒	鈴木 理沙	4	関西学院大	先鋒	鈴木 理沙	4	関西学院大	先鋒	鈴木 理沙	4
次鋒	伊東麻里絵	2	北海道教育大苫小牧	×	次鋒	福屋 瑠加	3	福岡教育大	次鋒	福屋 瑠加	3	福岡教育大	次鋒	福屋 瑠加	3	福岡教育大	次鋒	福屋 瑠加	3
8将	※大西ななみ	3	筑波大	○	8将	山田絵里華	3	関西学院大	8将	山田絵里華	3	関西学院大	8将	山田絵里華	3	関西学院大	8将	山田絵里華	3
7将	石井 涼子	4	福島大	×	7将	森岡 真実	1	環太平洋大	7将	森岡 真実	1	環太平洋大	7将	森岡 真実	1	環太平洋大	7将	森岡 真実	1
6将	西川 愛希	3	酪農学園大	×	6将	二宮 菜美	4	龍谷大	6将	二宮 菜美	4	龍谷大	6将	二宮 菜美	4	龍谷大	6将	二宮 菜美	4
中堅	川上 ゆき	4	早稲田大	○	中堅	※三浦 遥	4	福岡大	中堅	※三浦 遥	4	福岡大	中堅	※三浦 遥	4	福岡大	中堅	※三浦 遥	4
4将	納谷 瑞樹	3	東北学院大	×	4将	〃	〃	〃	4将	〃	〃	〃	4将	〃	〃	〃	4将	〃	〃
3将	武田 真弥	4	新潟大	×	3将	〃	〃	〃	3将	〃	〃	〃	3将	〃	〃	〃	3将	〃	〃
副将	岡崎 千尋	4	法政大	×	副将	新美 怜奈	4	中部大	副将	新美 怜奈	4	中部大	副将	新美 怜奈	4	中部大	副将	新美 怜奈	4
大将	※大亀 杏	4	明治大	×	大将	今村 舞	4	朝日大	大将	今村 舞	4	朝日大	大将	今村 舞	4	朝日大	大将	今村 舞	4

◎好評発売中

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著



目次

第一章 剣道小史―剣技・剣術・剣道の歴史

一、奈良時代～江戸中期―

闘争の技術から竹刀剣術の誕生まで

二、江戸時代中期以降―現在―剣術から剣道へ

第二章 剣道と教育

一、教育に関する基礎知識

二、「三育思想」

三、「教育基本法」と「学習指導要領」

四、「礼」の教育について

第三章 自分史を綴く

一、佐藤家略史

二、私の小学校時代

三、私の中学校時代

四、私の高等学校時代

五、私の大学4年間―体育教師を志して

六、指導者としての第二歩を踏み出す

七、指導者としての修行と剣道の国際的普及

八、「教育剣道の灯」を受け継ぎ、受け渡すために

第四章 剣道の特性と剣道指導の在り方

一、剣道の特性と在り方

二、剣道指導の在り方

三、「風姿花伝」から発達段階に応じた指導を考える

第五章 「稽古」―学習と指導

一、基本動作

二、基本の稽古法

三、応用動作

四、稽古への取組方と方法

五、剣道における形的重要性

第六章 試合について

一、試合(一)―先達の文献から

二、試合(二)―剣道の「術理」

終章 高め合う剣道

一、稽古の意義と心得

二、剣道に関する古今の訓え

三、互いに学び高め合う教育剣道のために

“互いに学び高め合う教育剣道のために”

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。

これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁・本体2400円＋税

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

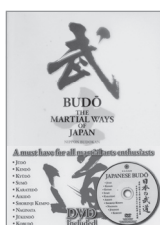
日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)

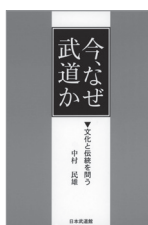


禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

一文化と伝統を問う一

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

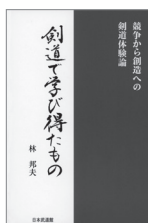


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。